

鳥たちにとって、干潟は採食・休息の場。
春と秋の渡りの時には、貴重な中継地になります。



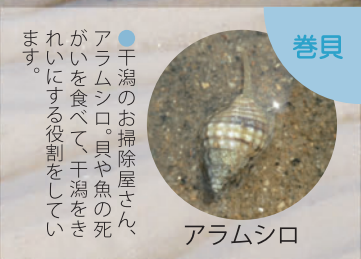
干潟の表面にある、たくさんの穴や足あと…
干潟にはどんな生き物がいるのでしょうか。



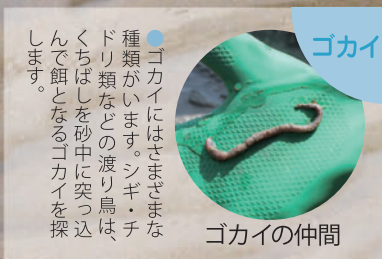
- イソシジミは水管が非常に長いので、アサリやハマグリよりも深いところへ潜ります。高松干潟でよく採れる貝で、地元では「シシビ」とも呼ばれています。
- 潮干狩りで人気のアサリ。殻の色や模様はさまざまで、地域によって異なります。
- サビシラトリガイが見つかりました。伊勢湾沿岸河口域では、生息する個体数が少ないといわれています。



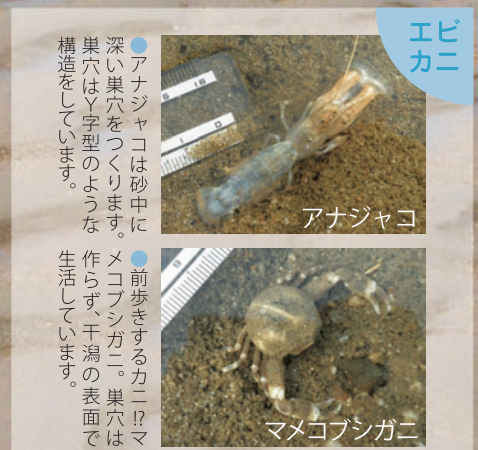
- ヒメハゼやマハゼは干潟でよく見られる魚です。
- イシガレイやボラ類などの仔稚魚は、水の浅い干潟を成育の場とします。



●干潟のお掃除屋さんアラムシロ。貝や魚の死がいを食べ、干潟をきれいにする役割をします。



●ゴカイにはさまざまな種類がいます。シギ・チドリ類などの渡り鳥はくちばしを砂中に突っ込んで餌となるゴカイを探します。



●アナジャコは砂中に深い巣穴をつくり、巣穴はY字型のような構造をしています。

●前歩きするカニ!? マメコブシガニ。巣穴は作らず、干潟の表面で生活しています。



●砂団子職人、コメツキガニ。ハサミで砂を口へ運び、有機物をより分けて食べたあと、残った砂をダンコ状にして捨てます。体色は砂に似ていて、敵から身を隠しています。

海の入口「干潟」

陸から海へつながる干潟には、多様な生き物が暮らしています。海の生き物にとっては成育の場として、豊かな海を育む「ゆりかご」になります。

また干潟には、海を浄化する重要な役割があります。川の水がそのまま海へ流れると、富栄養化が進み、海の環境を悪化させる原因になります。干潟があることで陸から流れ込んだ栄養分は一旦、干潟へと蓄積され、二枚貝やゴカイなどがそれを分解して、水を浄化しています。

水谷さん「干潟の環境を守ること、海の環境を守ること、つながっています」。